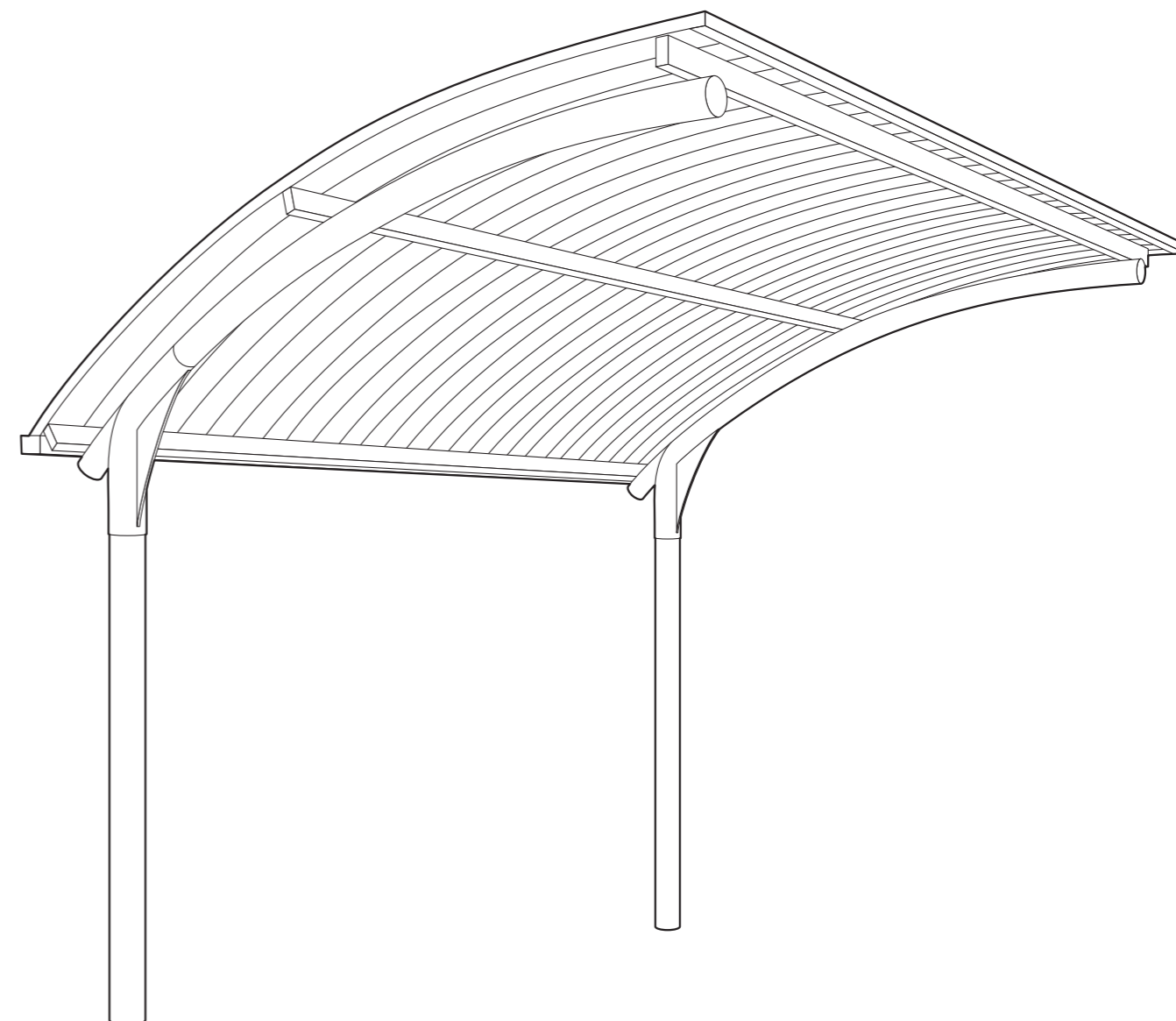
サイクルロビー［CY-LRW］
（AKHKA801）

取扱説明書

末永くご愛用いただくために、この「取扱説明書」をよくお読みいただき
正しい施工とご使用をお願いします。

※この取扱説明書は、工事完了後お客様にお渡しください。

【お問い合わせ先】

住宅関連製品総合メーカー
株式会社ダイケン

成田工場　千葉県富里市美沢11-1　☎0476(90)0711㈹

本　社	大阪☎06(6392)5321㈹	盛　岡	☎019(629)2202㈹	岡　山	☎086(297)9100㈹
札幌支店	札幌☎011(881)3121㈹	仙　台	☎022(235)4380㈹	広　島	☎082(294)9181㈹
東京支店	東京☎03(3633)6551㈹	埼　玉	☎048(667)9381㈹	福　岡	☎092(482)8112㈹
名古屋支店	名古屋☎0586(77)7561㈹	神奈川	☎045(316)3901㈹	東京西	☎042(567)1338㈹
大阪支店	大阪☎06(6392)5556㈹	静　岡	☎054(237)5375㈹	ﾎｰﾑｾﾝﾀｰ課	☎03(3633)6552㈹

お客様へ

■安全上のご注意

ご使用になる前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使いください。
ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ず守ってください。

●表示と意味は次のようになっています。

⚠ 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
⚠ 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が想定される内容を示します。

1 全般的なご注意

⚠ 警　告

○サイクルロビーは、強度について十分な配慮の上、設計・製造されておりますが、原則として平地での簡易自転車置場を使用目的とした製品です。
この目的以外でのご使用は思わぬ事故につながることがあります。
○設置場所の環境（土質・積雪状況・突風・強風・公害・塩害・水害など）を十分調査の上、製品仕様をご決定ください。
○構造物（建屋など）に設置される場合、当該構造物の強度については、弊社は責任を持ちません。
（構造物（建屋）の強度不足から思わぬ事故につながることもございますので十分ご注意ください。）

⚠ 注　意

○使用環境により品質劣化が進みやすくなりますので十分ご注意ください。
○腐食性ガスや海水、あるいは砂塵にさらされるような環境では、短期間のうちに使用に耐えない状態になることがあります。

2 基礎の設置について

⚠ 警　告

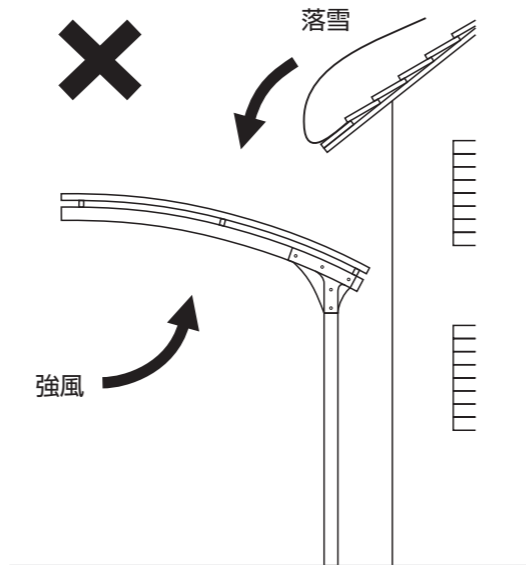
○実際の設計や施工に当たっては事前に十分調査の上、設置場所に応じた基礎を選定してください。
設計・施行前の十分な事前調査や設置場所に応じた適切な基礎の設置をしなかった場合、思わぬ事故につながることがあります。
○基礎の形状や大きさは、設置場所の土質、地形、設置場所付近の構造物などにより決定してください。
○軟弱地盤による地盤の沈下については、十分考慮してください。

⚠ 注　意

○標準図面集・カタログ・設計図面に記入されている設置基礎に関する記述内容は、地耐力100kN/m^2（長期）に基づいた参考値です。
○仕上げにモルタルを使用される際は、海砂は塩分が多量に含まれており腐食の原因になりますので、その使用は避けてください。
○モルタルやコンクリートの急結剤は腐食の発生や促進作用があるので、その使用を避けていただくか、塩化カルシウムや塩素系の化合物、硅酸ナトリウムなどの入っていないものを使用してください。

3 施工上のご注意

⚠ 警　告

○落雷、落下物などがある場所、または強風が屋根を吹き上げるおそれのある場所への設置はしないでください。
また、家屋の屋根下にはならないようにしてください。

○製品の周囲に看板など風圧力を受けるものは取り付けないでください。
風が抜けにくくなり、破損の原因となります。
○ボルトナットなどの締付金具は、十分な締め付けを行ってください。
不十分な場合は、思わぬ事故につながることがあります。
○電気配線を行う場合は必ず、電気工事店へご依頼ください。

⚠ 注　意

○製品の施工に関しては必ず「取扱説明書、設計図面」をよくお読みいただき正しく施工ください。
また、施工完了後に「取扱説明書」を、施主様にお渡しください。大切なご案内です。大切に保管ください。
○設置する地域の気象条件に合わせて、適応した製品をご使用ください。
また、当社基準強度以上の地域には使用しないでください。
○柱地際に水溜りができると錆が発生しやすくなり、破損などによる思わぬ事故につながることがあります。
インターロッキングなどを使用される場合は、必ずアンカーをコンクリートで十分被ふくしてください。

○縦樋の端末以降の排水処理については当社供給の範囲外となっておりますので、施主様または施工店様で手配ください。
○みだりに改造・変更をしないでください。
○モルタルやコンクリートの抽出液が工事中に製品の表面を流れないように注意してください。
しみやむらなどの外観不良や腐食の原因となります。
○施工時に製品の表面に付着したモルタルやコンクリートなどは速やかに清掃してください。
また、表面にキズをつけますと腐食の原因になりますので、取り扱いには十分ご注意ください。
○製品と銅板やラスの異種金属が接触しないようにしてください。
また、接触する場合には、ビニールテープなどを貼るか塗料などで絶縁処理をしてください。
○腐食のおそれのある接着剤や化学薬品を施工上使用する場合は、製品と接触しないようにしていただくか、接触する部分を完全に養生してください。

4 安全のために必ず守ってください

⚠ 警　告

○製品をむやみに揺すったり、乗ったり、寄りかかったり、製品の上に重いものを乗せたりしないでください。
故障や破損の原因になります。
○積雪時には雪下ろしが必要です。
45cmを超えないうちに雪下ろしをしてください。

注意：積雪量1cm当り20N/m^2（比重0.2）、
地域気象条件により単位量が異なりますのでご注意ください。

⚠ 注　意

○雪下ろしの際に金属スコップなどで衝撃を与えると、屋根材が凹んだり傷ついたりする場合があります。
プラスチック製スコップで静かに降ろしてください。
破損の原因になります。
○製品のそばでゴミなどを焼いたりしないでください。
変形の原因になります。
○電球、蛍光灯などの取り替え、および配線などに触れる場合は、必ず電源を切って作業してください。
感電のおそれがあります。
○製品に電線を巻き付けないでください。
漏電による感電のおそれがあり、事故の原因になります。

5 お手入れ法

⚠ 注　意

○樋に落ち葉などが詰まると雨水がオーバーフローしますので、定期的に清掃してください。
○あやまってキズをつけた場合、補修塗料で補修してください。
放置すると腐食の原因になります。
○長年ご使用いただくと、ボルトやネジ類がゆるむことがありますので、定期的に締め直してください。
○お手入れは中性洗剤を使用してください。
シンナー・ベンジンなどの石油系溶剤は絶対にご使用にならないでください。

■部材一覧（1スパン）

■使用工具リスト

	工　具　名	サイズ	数　量
1	ボックスラチェットレンチ	19	1個以上 M12用
		17	2個以上 M10用
2	充電式⊕ドライバー		1個以上
3	ディスクサンダー	切断	1個
4	鉄工キリ	φ3.5	1個以上（トイサドル）
5	ドリル		1個以上
6	ニッパ		1個

1 支柱の組み立て

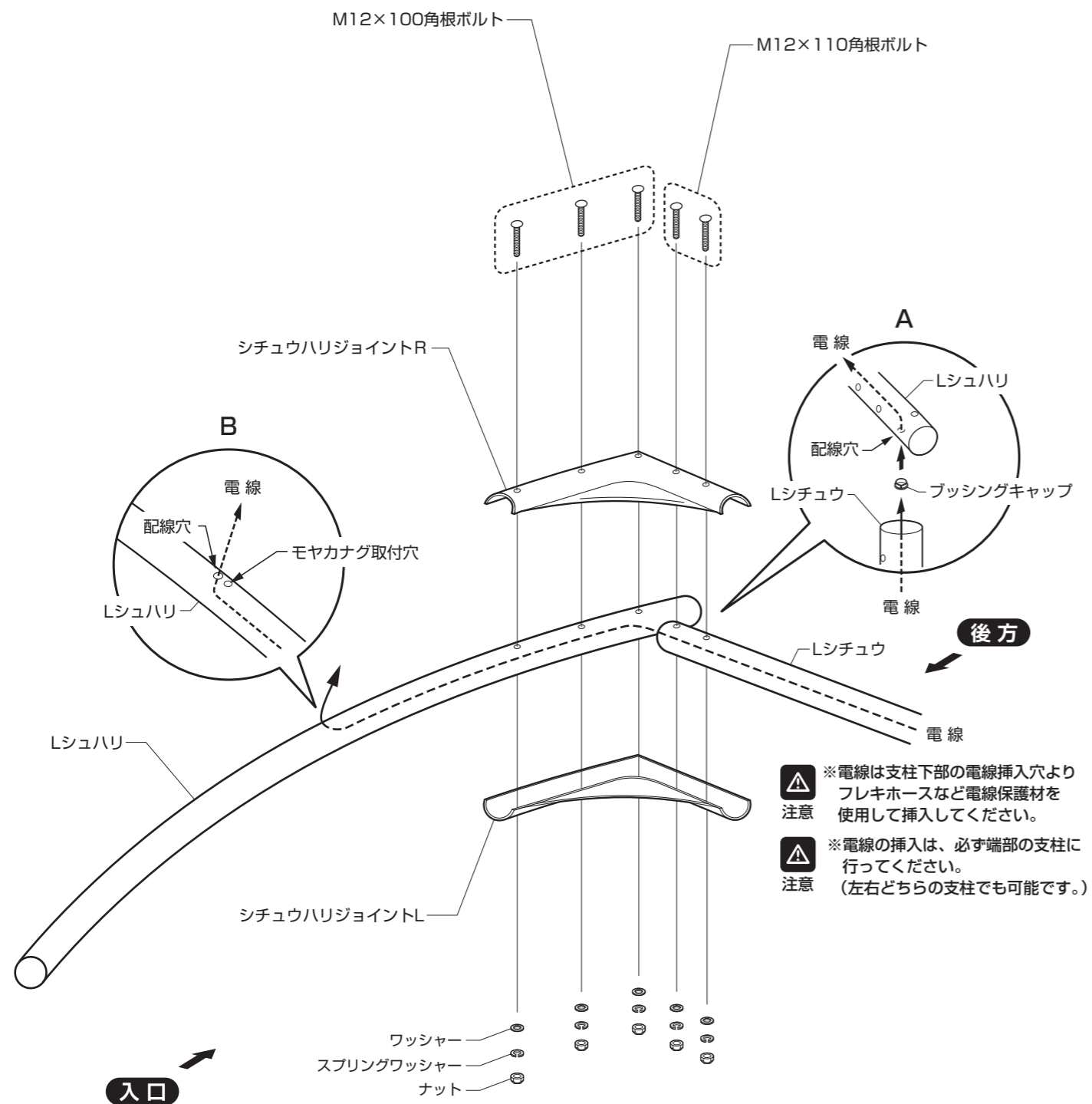
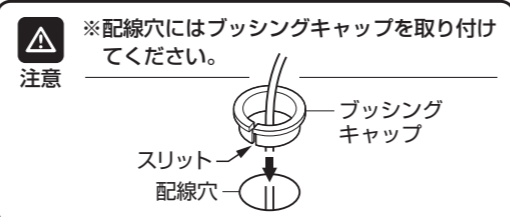
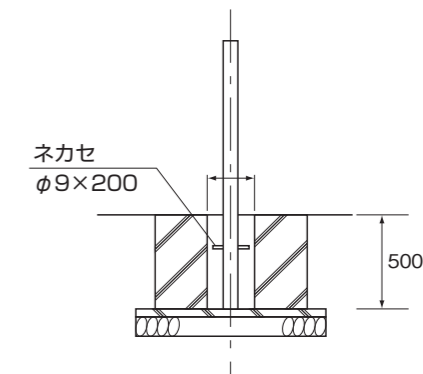
●端部支柱(左右どちらか片側)には、支柱を組み立てる前に図A、Bのように配線穴にブッシングキャップを取り付けて、あらかじめ照明用の配線をしておいてください。(下図参照)
●LシュハリとLシチュウを図のようにシチュウハリジョイントRとLではさみ、M12角根ボルト5本で固定してください。

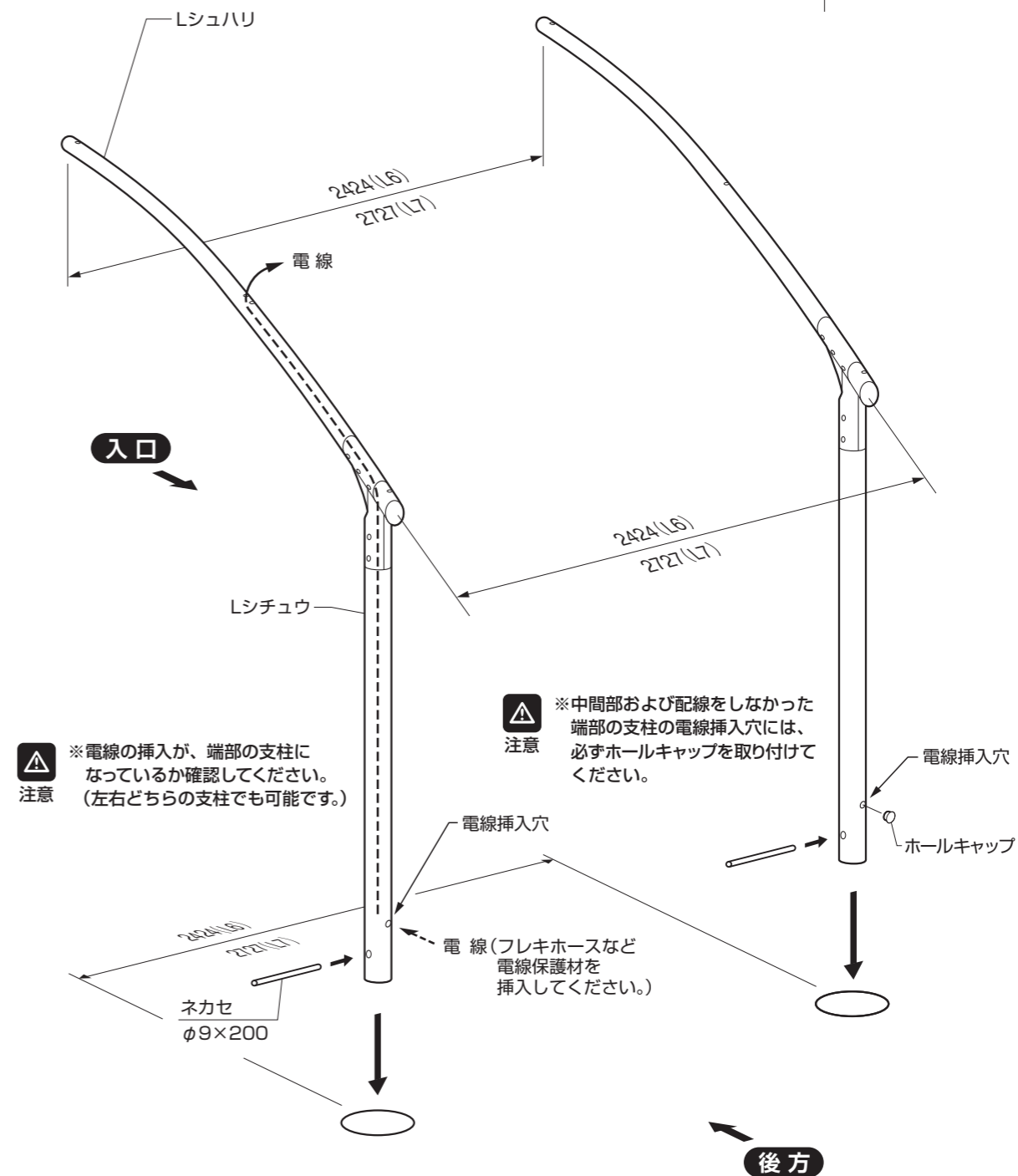
注意 ※電気工事を行う際には必ず工事店・電気店(有資格者)にご依頼ください。
有資格者以外の方の電気工事は、法律で禁止されています。

注意 ※配線穴にはブッシングキャップを取り付けてください。

注意 ※電線は支柱下部の電線挿入穴よりフレキホースなど電線保護材を使用して挿入してください。

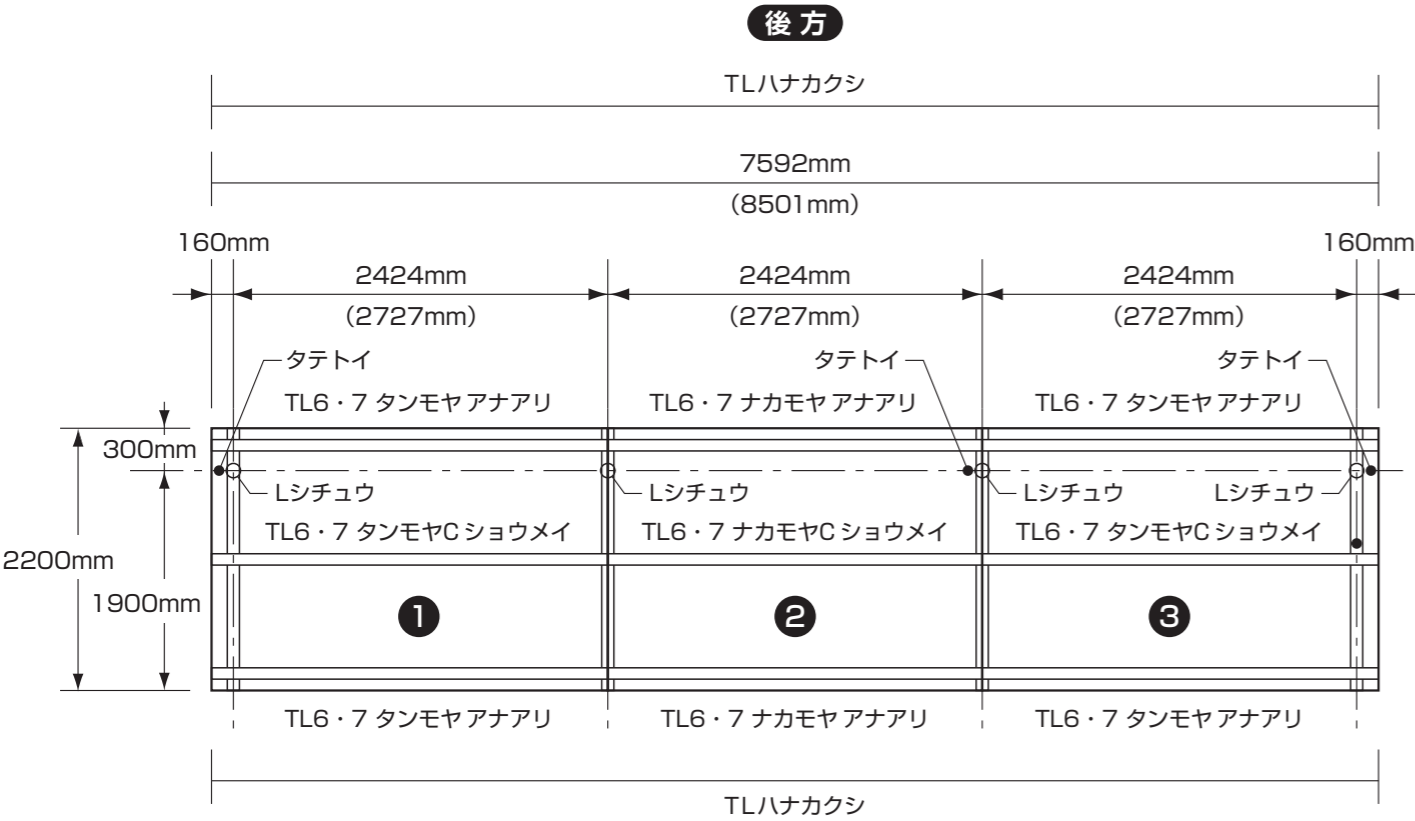
注意 ※電線の挿入は、必ず端部の支柱に行ってください。(左右どちらの支柱でも可能です。)

2 支柱の建て込み

●組み立てた支柱の基礎埋込部にネカセを挿入し、φ250基礎に支柱を埋め込み、コンクリートで固定してください。またこの時、支柱の垂直および支柱間ピッチ、主梁先端ピッチ、軒先(入口)部高さが揃うように調整してください。

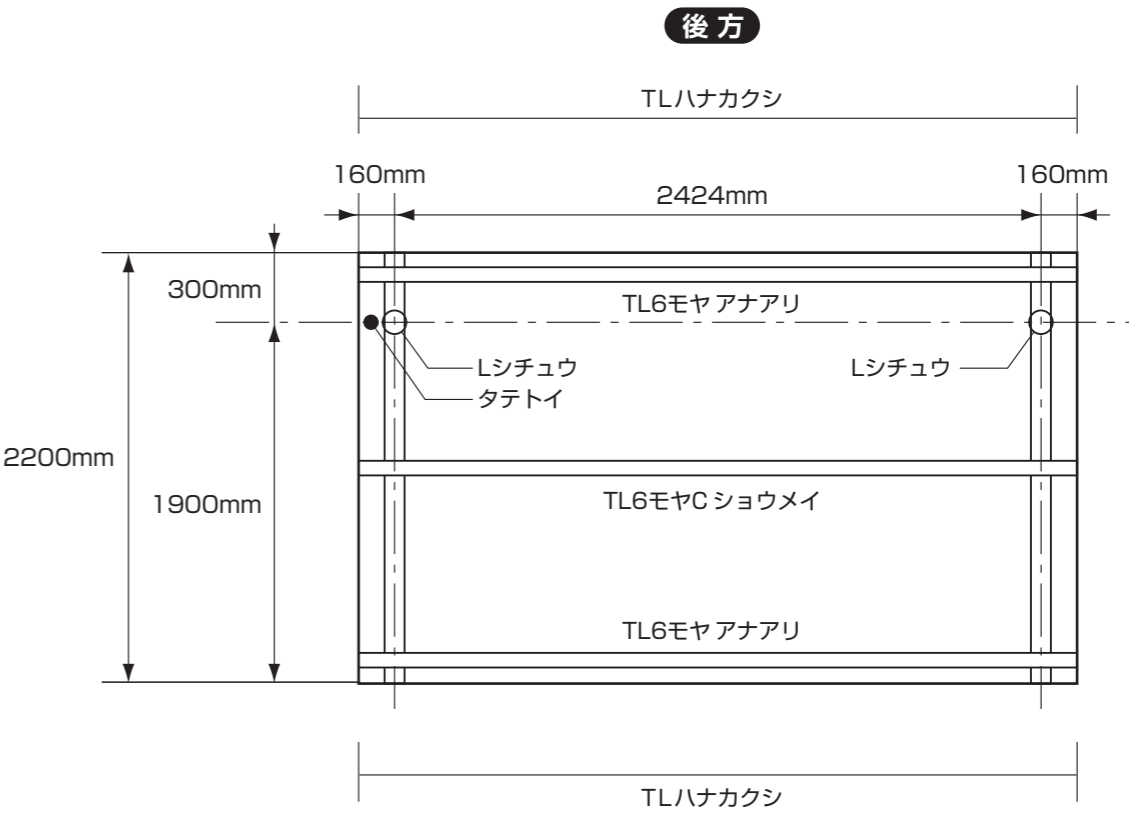
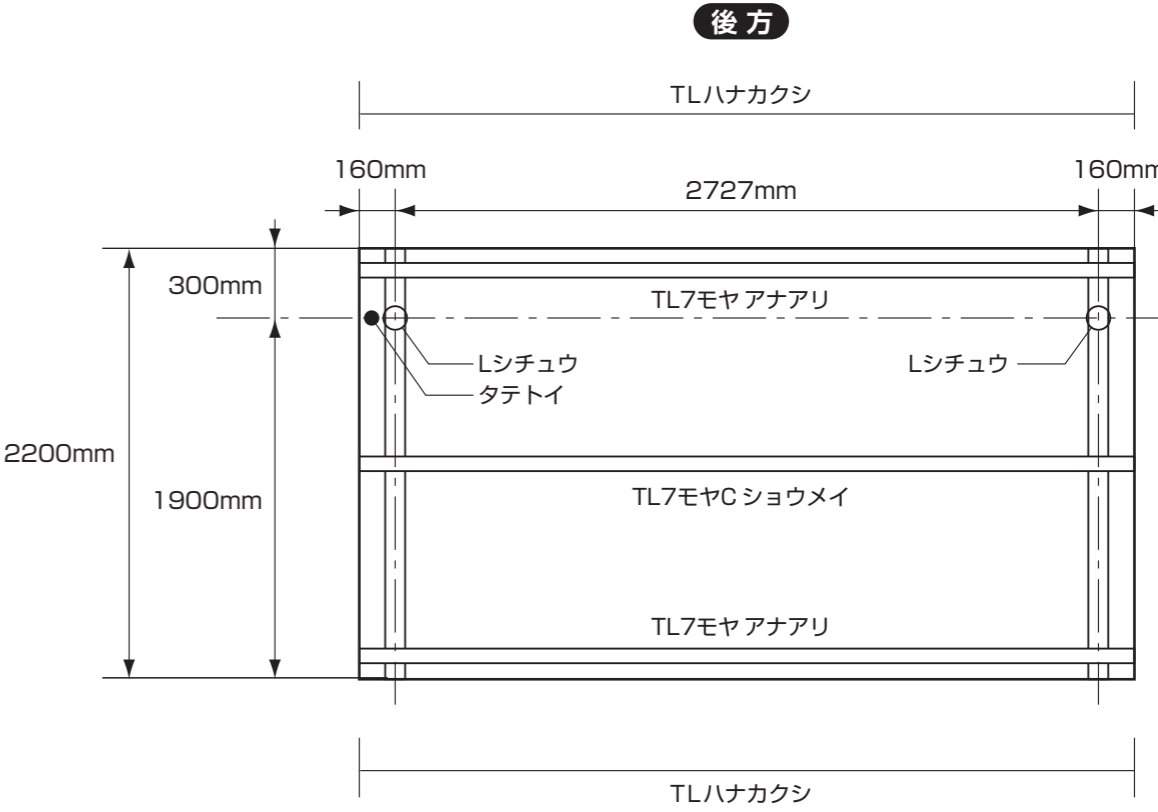
注意 ※中間部および配線をしなかった端部の支柱の電線挿入穴には、必ずホールキャップを取り付けてください。

割付図

●１スパン施工の場合
右ページの1スパン用割付図をご使用ください。
●多スパン施工の場合
多(3)スパンの場合を参考に、施工するスパン数に合わせて❶〜❸のモデルを利用して施工ください。
●部品名／部品番号は製品ラベルと対応して表示されていますので、部材の割り付け時にご利用ください。
●施工に際しては必ず、取扱説明書・設計図・割付図に基づいて施工してください。

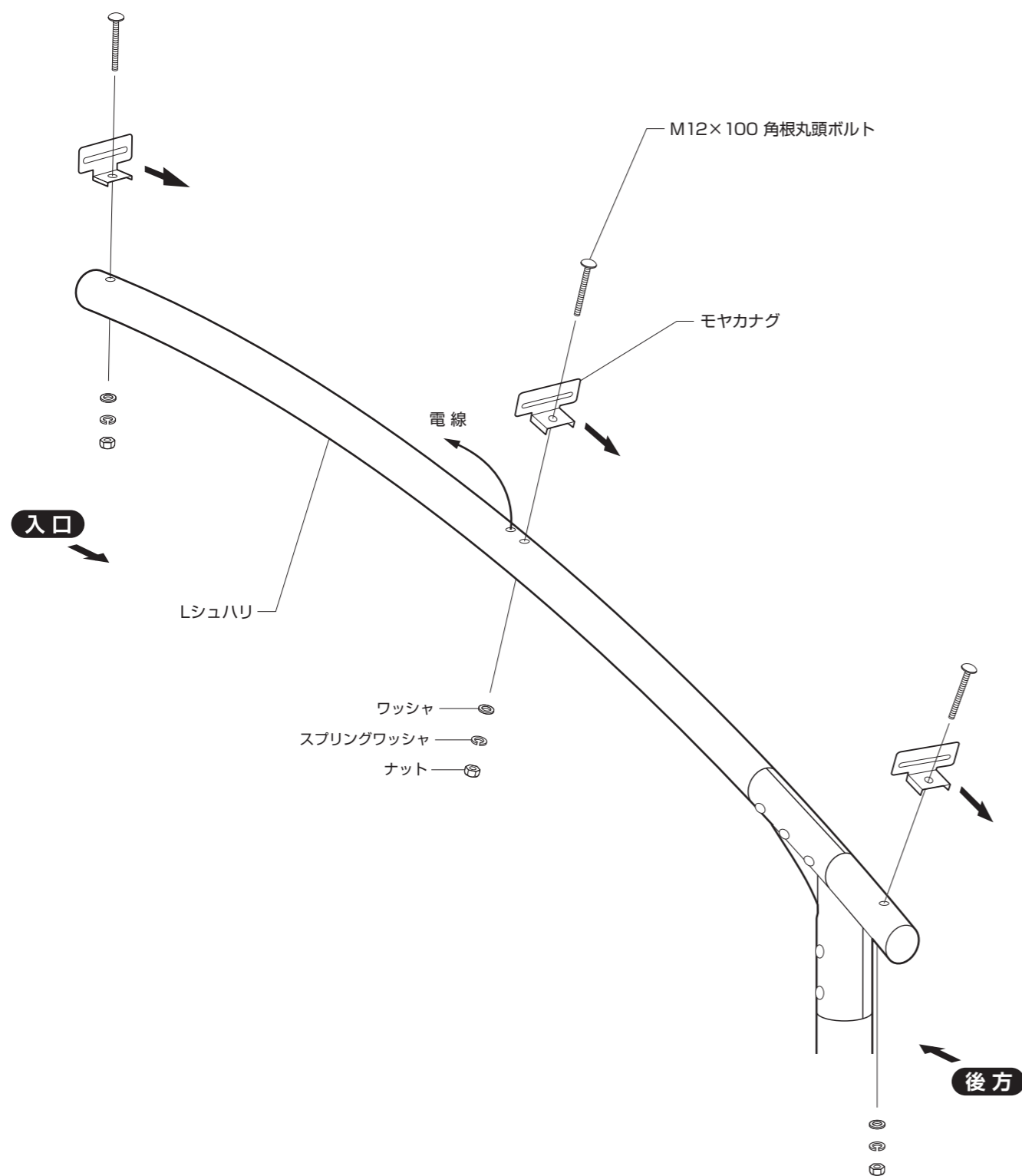
●多スパンの場合

（ ）内寸法は、2727mmのものです。

YC-L6	❶	❷	❸
支柱・主梁	Lシチュウ Lシュハリ	Lシチュウ Lシュハリ	Lシチュウ Lシュハリ
母屋(前・後)	TL6タンモヤ アナアリ	TL6ナカモヤ アナアリ	TL6タンモヤ アナアリ
母屋(中)	TL6タンモヤC ショウメイ	TL6ナカモヤC ショウメイ	TL6タンモヤC ショウメイ

YC-L7	❶	❷	❸
支柱・主梁	Lシチュウ Lシュハリ	Lシチュウ Lシュハリ	Lシチュウ Lシュハリ
母屋(前・後)	TL7タンモヤ アナアリ	TL7ナカモヤ アナアリ	TL7タンモヤ アナアリ
母屋(中)	TL7タンモヤC ショウメイ	TL7ナカモヤC ショウメイ	TL7タンモヤC ショウメイ

●1スパン(2424mm)の場合

●1スパン(2727mm)の場合

3 モヤ金具の取り付け

●Lシュハリにモヤカナグを3箇所、図のようにM12×100角根丸頭ボルトで取り付けてください。

注意 ※モヤカナグには、取り付ける方向があります。
下図をご覧いただいて、間違いのないよう正しく取り付けてください。

モヤの取り付け ① 4

●主梁の対角寸法を等しくなるように調整した後、モヤカナグにTLモヤアナアリ（前・後）をM10×50六角ボルトで取り付けてください。
※ルーフピース取付穴がある方を上にしてください。
※ナットはリブ付きナットを使用します。
端末部・中間部の取付方は、下図を参照ください。
●前後のモヤにルーフピースを差し込んで取り付けてください。

連棟中間部

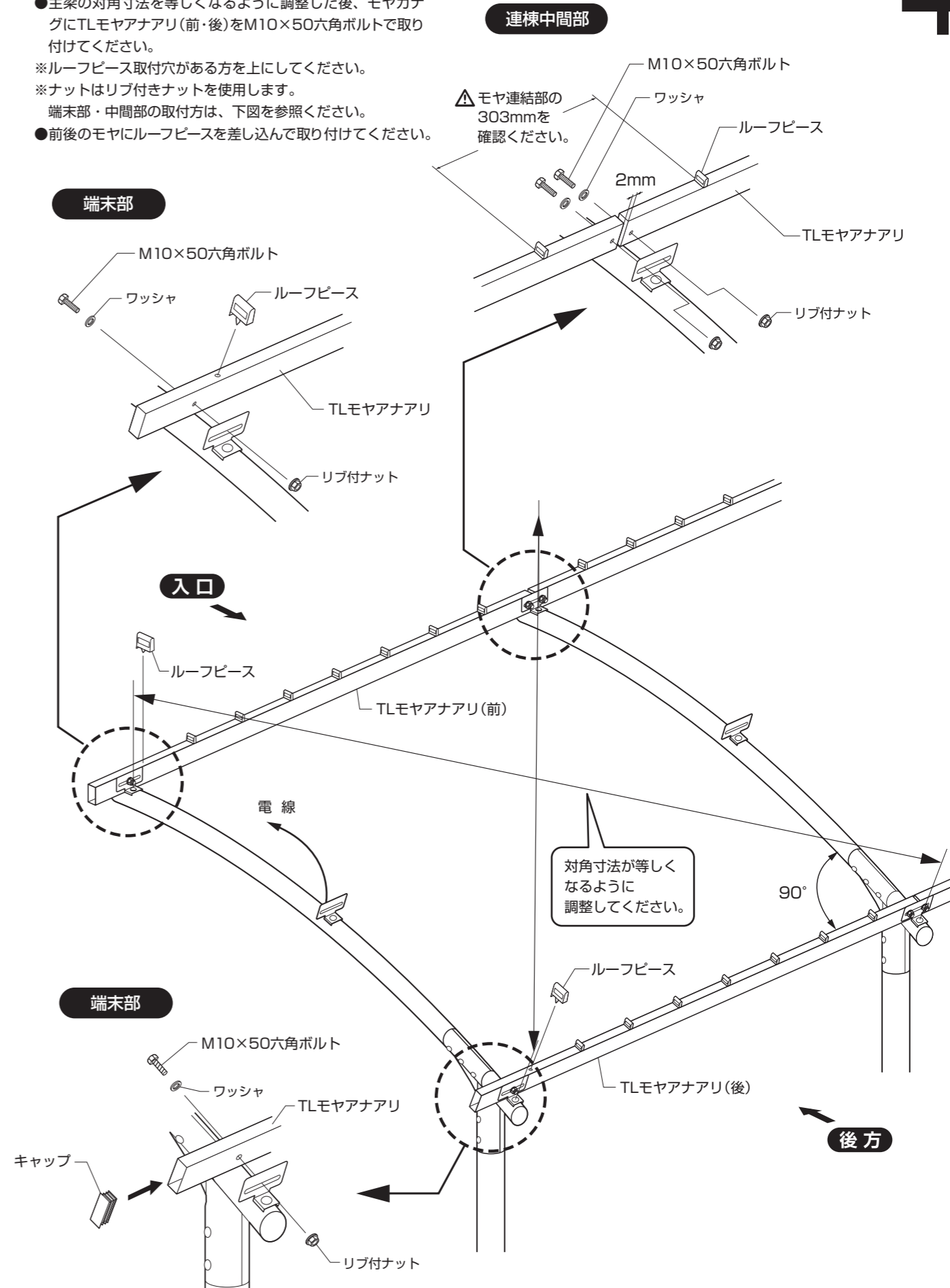
M10×50六角ボルト
⚠モヤ連結部の303mmを確認ください。
ワッシャ
ルーフピース
2mm
TLモヤアナアリ
リブ付ナット

端末部

M10×50六角ボルト
ワッシャ
ルーフピース
TLモヤアナアリ
リブ付ナット

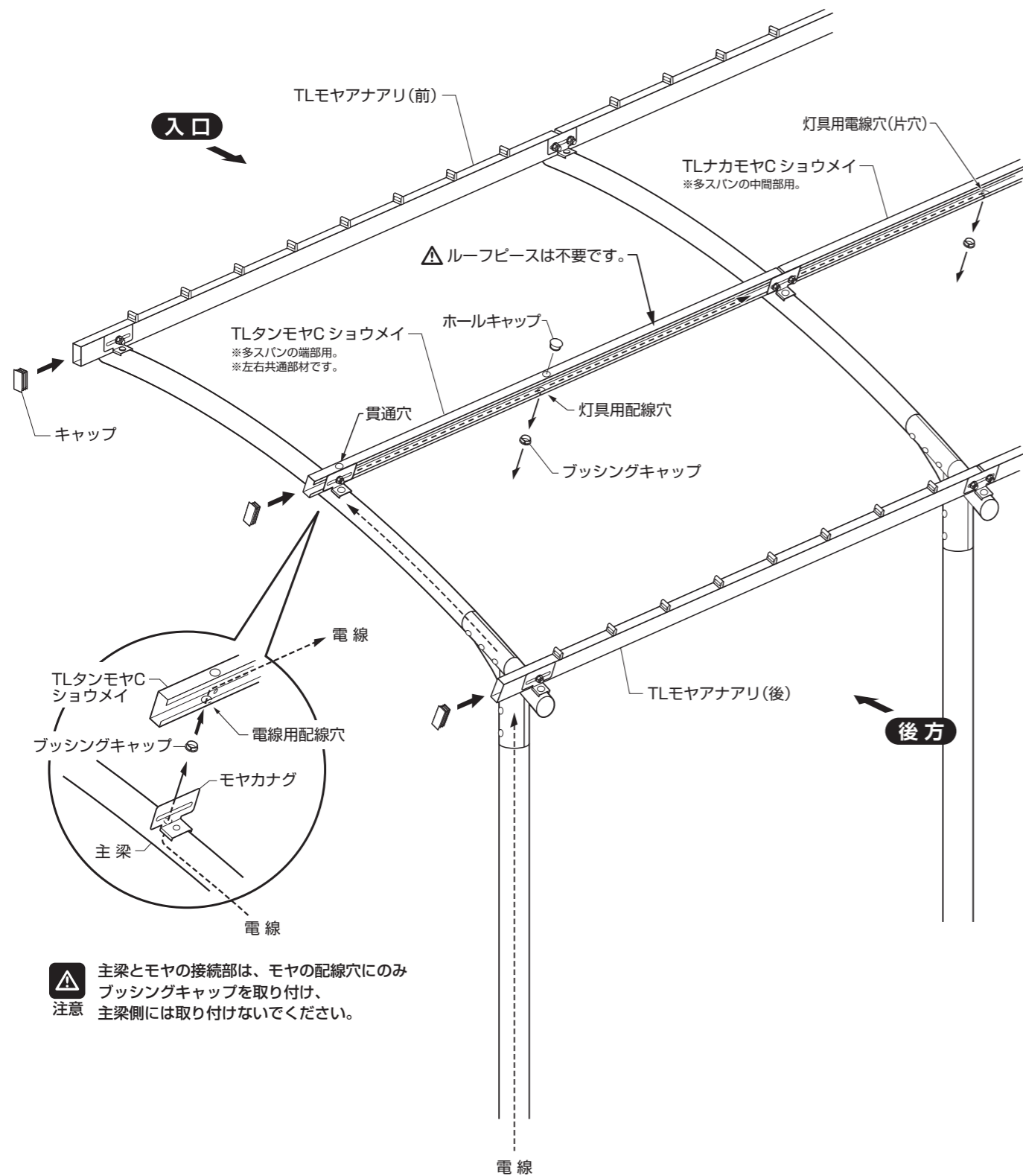
入 口
ルーフピース
TLモヤアナアリ（前）
電 線
対角寸法が等しくなるように調整してください。
90°
ルーフピース
TLモヤアナアリ（後）
後 方

端末部

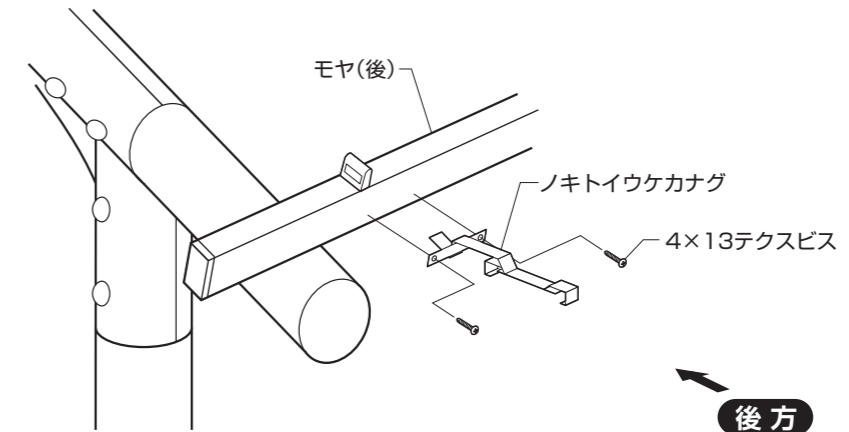
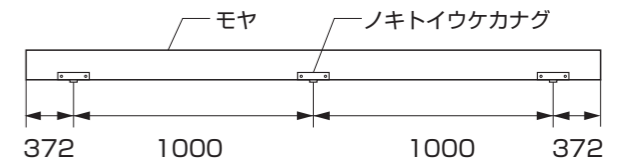
M10×50六角ボルト
ワッシャ
TLモヤアナアリ
キャップ
リブ付ナット

5 モヤ（モヤC ショウメイ）の取り付け ②

●TLモヤC ショウメイを取り付ける前に、主梁の配線穴から引き出しておいた配線をモヤの配線穴から内側に引き込んでおいてください。（下図参照）
●配線後、モヤカナグにTLモヤC ショウメイを前後モヤの取り付けと同様にしてM10×50六角ボルトで取り付けてください。
※モヤ取り付け後、モヤ内に引き込んだ配線は、モヤ中央の配線穴から外へ引き出しておいてください。（下図参照）

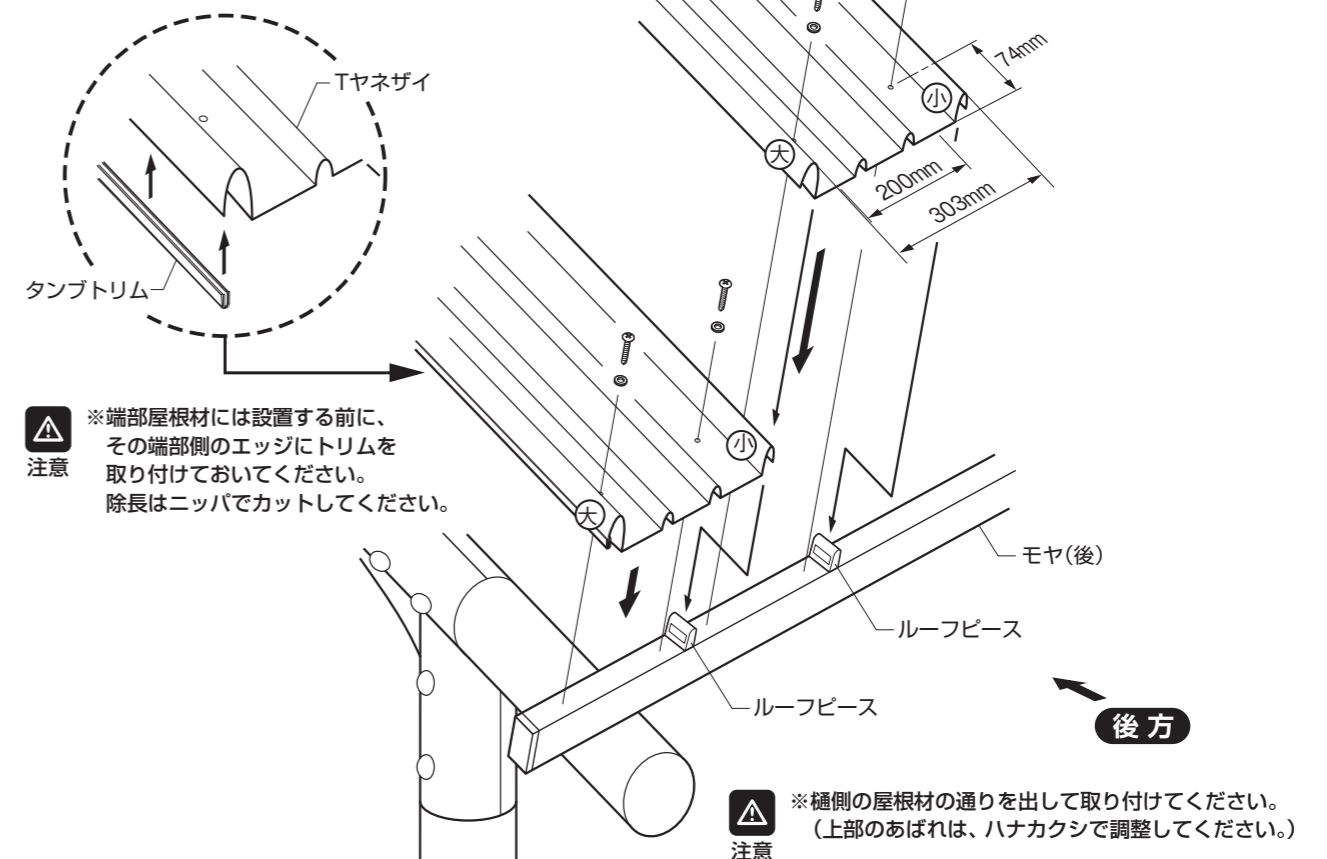
警告 ※モヤCショウメイは、前後モヤと形状が異なります。またタンモヤとナカモヤでは、穴の開き方が違います。
モヤの種類および取付方向は、下図を参照ください。

●最後に、タンモヤの端部にキャップをはめ込んでください。

注意 主梁とモヤの接続部は、モヤの配線穴にのみブッシングキャップを取り付け、主梁側には取り付けないでください。

屋根材の取り付け 6

●Tヤネザイを取り付ける前にモヤ（後）に、ノキトイウケカナグを取り付けてください。
※取り付けには4×13テクスビスを使用し、モヤの下面に合わせて3箇所に取り付けてください。
※取付位置は、右図を参照ください。

●Tヤネザイの両端のリブには大小があります。
１枚目の屋根材のリブ㊛を下図のようにルーフピース合わせて設置し、２枚目の屋根材のリブ㊵を１枚目の屋根材のリブ㊛に、反対側のリブ㊛をルーフピースに重ねて設置します。
●屋根材には取り付け用の下穴があいています。
その下穴をモヤのセンターに合わせて4×16テクスビス+ゴム付ワッシャーで、前後の2本のモヤに固定してください。

警告 ※屋根の上に乗って施工はしないでください。
屋根材が破損し、落下の危険性があります。

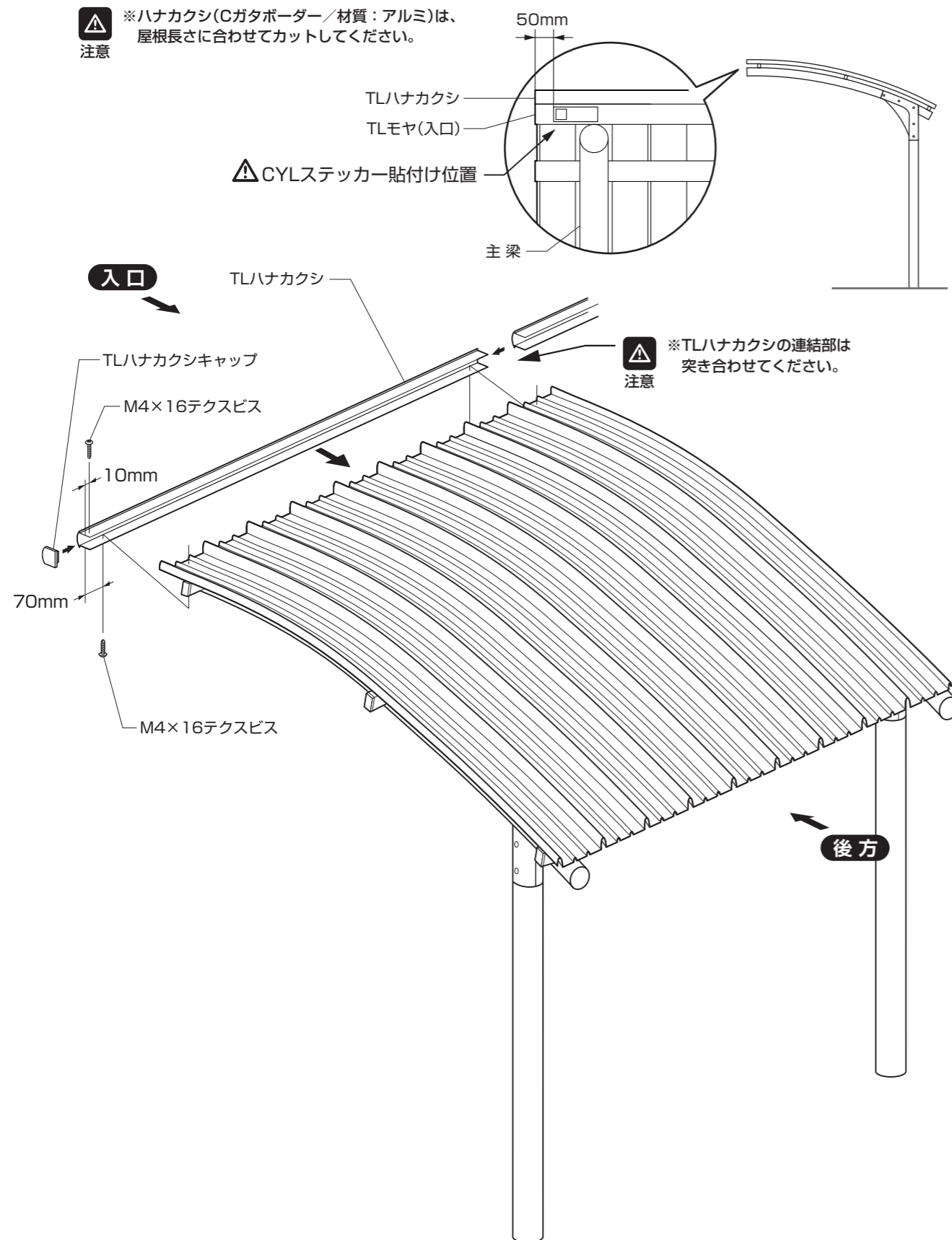
注意 ※屋根材ビス止め時に出た切り粉は施工後に必ずほうきなどで取りのぞいてください。
（もらいさびの原因になります）

注意 ※端部屋根材には設置する前に、その端部側のエッジにトリムを取り付けておいてください。
除長はニッパでカットしてください。

注意 ※樋側の屋根材の通りを出して取り付けてください。
（上部のあばれは、ハナカクシで調整してください。）

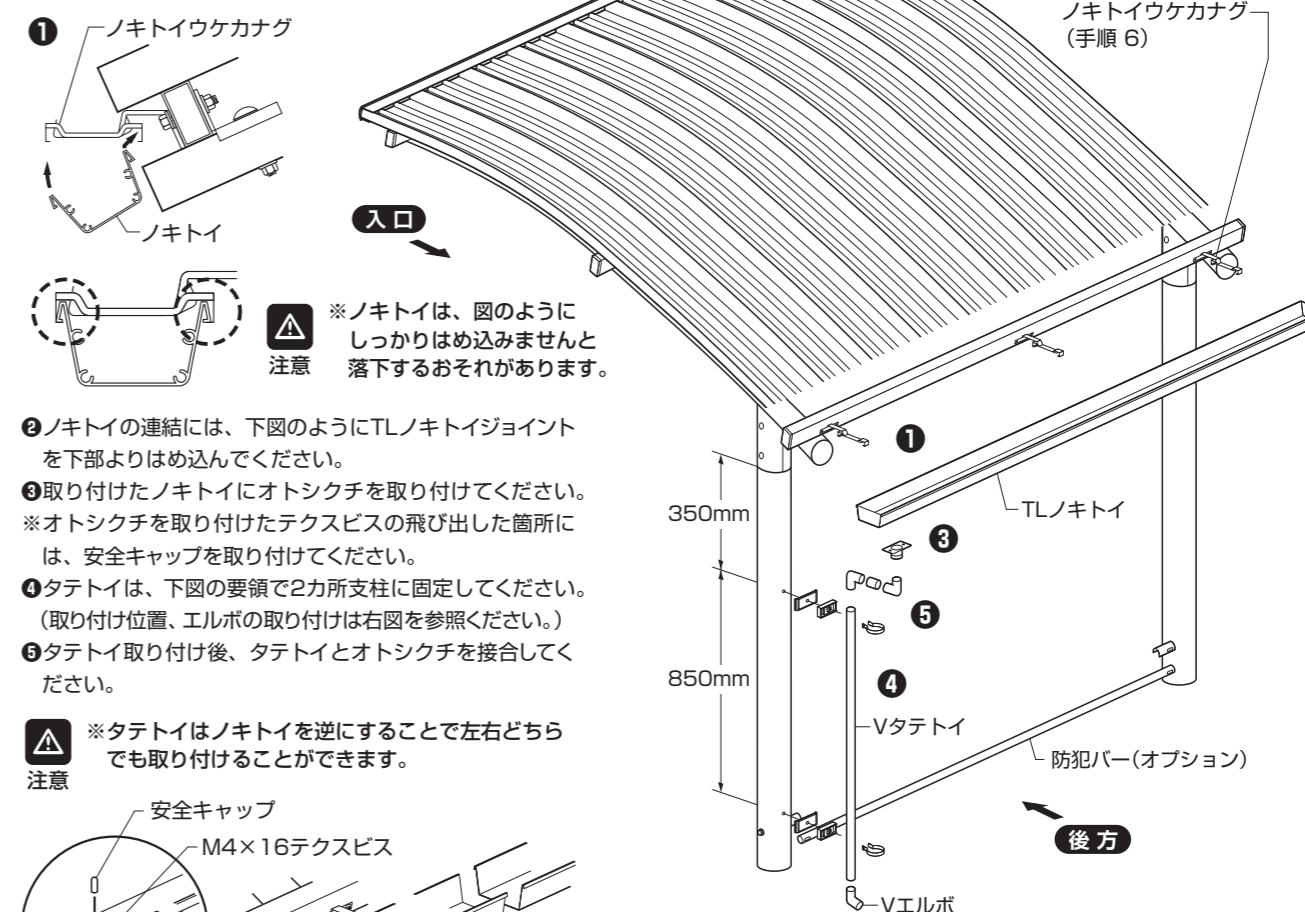
7 ハナカクシの取り付け

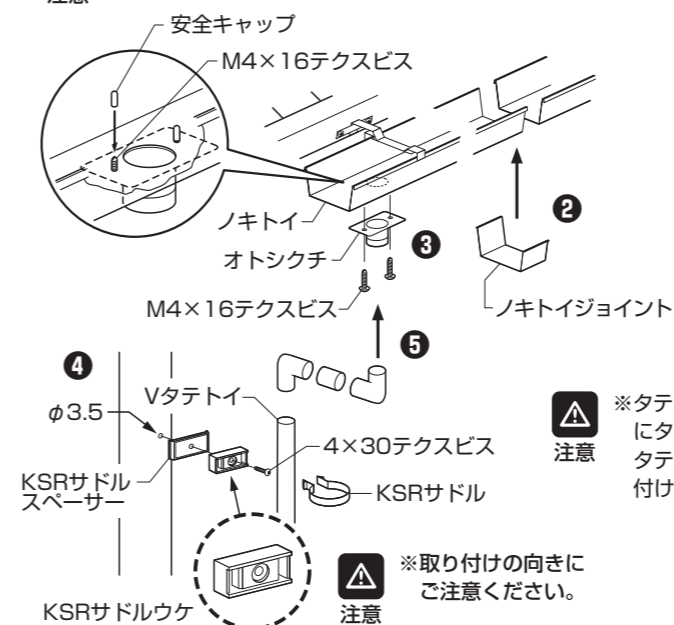
●TLハナカクシの端部にTLハナカクシキャップを取り付けてください。
　取り付けたキャップは、端部より10mmの位置でハナカクシの上からM4×16テクスビスで止めてください。
●キャップを取り付けたTLハナカクシを図のようにTLハナカクシを屋根材にはめ込み、下からM4×16テクスビスで固定して
　ください。(端部より70mmの位置)
●最後に各ボルト・ナットの締め忘れ、ゆるみがないかを点検して、所定の位置に注意ステッカーを貼ってください。
　(注意ステッカーは、部材の中に入っています。)

注意 ※ハナカクシ(Cガタボーダー／材質：アルミ)は、屋根長さに合わせてカットしてください。

注意 ※TLハナカクシの連結部は突き合わせてください。

樋の取り付け 8

❶ノキトイを下図のように奥側よりノキトイウケカナグ(手順6)にナナメにはめ込み、その後手前をはめ込んでください。
※ノキトイはカナグに、しっかりはめ込んでください。

注意 ※ノキトイは、図のようにしっかりはめ込みませんと落下するおそれがあります。

❷ノキトイの連結には、下図のようにTLノキトイジョイントを下部よりはめ込んでください。
❸取り付けたノキトイにオトシクチを取り付けてください。
※オトシクチを取り付けたテクスビスの飛び出した箇所には、安全キャップを取り付けてください。
❹タテトイは、下図の要領で2カ所支柱に固定してください。
　(取り付け位置、エルボの取り付けは右図を参照ください。)
❺タテトイ取り付け後、タテトイとオトシクチを接合してください。

注意 ※タテトイはノキトイを逆にすることで左右どちらでも取り付けることができます。

注意 ※タテトイを取り付ける前に、支柱の指定寸法箇所にタテトイ取付用のφ3.5の下穴をあけてください。
タテトイは、支柱の側面・背面のどちらにも取り付けることが可能です。

注意 ※取り付けの向きにご注意ください。

オプション

■ L6・L7防犯バー(Vビーム)

L6用：2294mm／L7用：2597mm

●Vビーム取付金具(PUカナグ)を右図のようにシチュウに取り付けてください。
●次にVビームを取付金具(PUカナグ)の下から差し込み、ボルトで固定してください。
※ビームを差し込む時少し堅いのでご注意ください。

注意 ※右図は、多スパンの場合の中柱への取付方を説明しています。
多スパンの端部および1スパンの場合は、PUカナグを取り付けるボルトは、支柱の外側から内側に向けて差し込んでください。